



令和6年11月8日
海上保安庁

マニラ・ダイアローグへの参加

11月7日、彼末海上保安監はフィリピンにおいて初めて開催された「マニラ・ダイアローグ」に参加しました。

会合においては、パネル1「海上における法の支配のガーディアンとしての海上保安機関」に参加したほか、フィリピン、インドネシアの海上保安機関の長官とバイ会談を実施しました。

1. 開催日・場所

開催日：令和6年11月6日(水)～11月8日(金)

(パネル1：令和6年11月7日(木))

場 所：フィリピン・マニラ グランドハイアットマニラ

2. 参加者 ※パネル1のみ

海上保安庁 (JCG) : 彼末海上保安監

フィリピン沿岸警備隊 (PCG) : ガバン長官

インドネシア海上保安機構 (BAKAMLA) : イルファンシャ長官

マレーシア海上法令執行庁 (MMEA) : スハイミ本部長

在フィリピンベトナム大使館 : ライ大使

※パネルチェア： East-West Center 副センター長 Dr. SATU LIMAYE

3. 結果

- ・ 「海上における法の支配のガーディアンとしての海上保安機関」がテーマのパネリストとして、各国の海上保安機関の長官等と法の支配の重要性について議論を交わしました。
- ・ PCG ガバン長官、BAKAMLA イルファンシャ長官と、それぞれバイ会談を実施し、日比関係及び日尼関係の更なる深化と連携協力に関して継続することを確認しました。

4. その他

画像の提供が可能です。ご希望される場合は、海上保安庁政策評価広報室 jcgh-koho-6b3c@ki.mlit.go.jp までご連絡をお願いいたします。



パネル1での発言の様子



パネル1 集合写真



日比バイ会談の様子



日尼バイ会談の様子

※ マニラ・ダイアログとは（主催者ウェブサイト一部抜粋）

自由で開かれた、ルールに基づく海洋秩序というこの地域共通の利益を促進するため、私たち（主催者）は2024年11月6日から8日にかけて「南シナ海に関するマニラ対話」を開催する。この対話には、東南アジアおよびインド太平洋地域全体から、最も影響力のある外交政策の専門家、オピニオンリーダー、学識経験者が集まる。参加者は、紛争解決において、強制や武力行使ではなく、法の支配が優位に立ち、地域の平和と安定が守られるよう、問題を討議し、革新的なアイデアを提案し、提言を行う。

（参照：<https://scsdialogue/org>）